


指導資料

社会 第 138 号

 鹿児島県総合教育センター
令和 4 年 4 月発行

対象
校種

中学校 義務教育学校
特別支援学校



社会科の指導における ICT の効果的な活用について —ロイロノート・スクールによる実践例—

GIGA スクール構想の下での社会科指導において、ICT を活用する際のポイントを二点説明する。また、ロイロノート・スクール¹⁾のシンキングツールを活用し、調べまとめる技能における効果的な実践例について紹介する。

1 社会科において ICT を活用する際のポイント

各教科等の指導における ICT 活用の意義とその必要性については、学習指導要領に次のように示されている。

情報活用能力の育成を図るため、各学校において、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整え、これらを適切に活用した学習活動の充実を図ること。(中学校学習指導要領第 1 章第 3 (3)p. 24 下線は筆者による)

情報活用能力は学習の基盤となる資質・能力の一つであり、各教科等における主体的・対話的で深い学びへとつながっていくことが期待されるものである。今後、人々のあらゆる活動に一層浸透していく情報技術を、生徒が手段として学習や日常生活に活用できるようにするため、各教科等においてこれらを適切に活用した学習活動の充実を図ることとしている。また、各教科等の指導に当たっては、各種の統計資料や新聞、視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用を図ることも重要である。

そこで、社会科において ICT を活用する際

のポイントとして、次の二点を示す。

- 学び方や調べ方を大切にし、生徒の主体的な学習を一層重視すること
- 社会的事象等について調べまとめる技能を身に付けさせること

また、ポイントの詳細を以下に述べたい。

- (1) 学び方や調べ方を大切にし、生徒の主体的な学習を一層重視すること

学習指導要領解説社会編には次のように示されている。

情報の収集、処理や発表などに当たっては、学校図書館や地域の公共施設などを活用するとともに、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的に活用し、指導に生かすことで、生徒が主体的に調べ分かつようとして学習に取り組めるようにすること。(中学校学習指導要領解説社会編第 3 章 2 (2)p. 177 下線は筆者による)

学校教育で情報化をより進めていくという観点から、「情報の収集、処理や発表などに当たっては、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的に活用する」ことが大切である。これらの情報手段の活用は、生徒が情報を多様な方法で収集することにより、生徒自身、課題の追究や解決の見通しをもって、主体的に調べ分かつようとして学習

1) ロイロノート・スクールとは、株式会社 Loilo が提供する授業支援アプリである。

に取り組むことが可能となる。

また、生徒によるこれらの情報手段の活用については、個別の事柄や概念などに関する知識の習得や、情報の収集、処理、共有や交流及び発表などを通して社会科の学習をより豊かなものにする可能性をもっている。

(2) 社会的事象等について調べまとめる技能を身に付けさせること

社会的事象等について調べまとめる技能である「情報を収集する技能」、「情報を読み取る技能」、「情報をまとめる技能」を生徒に身に付けさせるため、適切な情報活用を促す学習活動を展開することを重視するなど ICT を活用した学習活動のより一層の充実が求められている。

以下は、社会科における学習過程及び習得する知識と調べまとめる技能の関係についてまとめたものである（図1）。

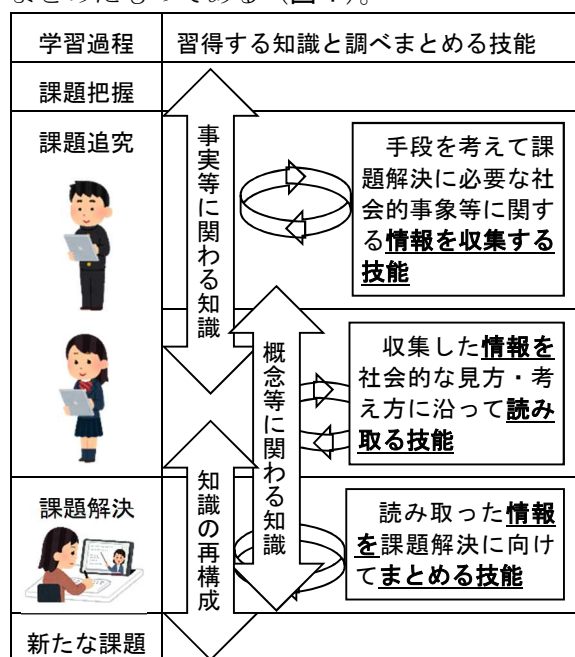


図1 社会科における学習過程及び習得する知識と調べまとめる技能の関係

社会科の学習においては、課題を追究したり解決したりする活動の一層の充実が求められている。なぜなら、社会科の究極のねらいである公民としての資質・能力の基礎は、いずれも知識及び技能を習得・活用して思考・判断・表現しながら課題を解決する一連の学習過程（課題把握→課題追究→課題解決→新たな

課題）において効果的に育成されると考えられるからである。

習得する知識については、学習内容の深い理解と、事実等に関わる知識の定着を図るとともに、社会における様々な場面で活用できる概念等に関わる知識として獲得し、その過程を通して知識が再構成されていくことも示している。

調べまとめる技能については、調査活動や諸資料の活用など、手段を考えて課題の解決に必要な社会的事象等に関する情報を収集する技能、収集した情報を社会的な見方・考え方を働かせて読み取る技能、読み取った情報を課題解決に向けてまとめる技能を身に付けることを意味している。

この知識と技能を含めた全ての資質・能力が、一連の学習過程を通して互いに往還し、結び付き養われることが期待されるのである。

2 調べまとめる技能における ICT の活用場面

社会科において ICT を活用する際のポイントとして、調べまとめる技能について先述した。そこで、中学校における ICT の活用事例を以下にまとめた。

技能	ICT の活用場面の例
情報を収集する技能	写真機能や録画機能、コンピュータのソフトやアプリ活用などの手段を考えて情報を収集する。
情報を読み取る技能	収集したデジタルデータやWeb サイトなどからその傾向性を捉えたり、比較・関連付けたり、用途に留意したりしながら読み取る。
情報をまとめる技能	読み取った情報を、正確に記録したり、図や表にしたり、受け手への分かりやすさに留意したりしながらまとめる。

このような調べまとめる技能における ICT の活用場面の例は、それぞれの技能を個別に捉えるのではない。例えば、情報を読み取る技能とまとめる技能は互いに関連している。情報から読み取る傾向を踏まえてからその情報をまとめるため、まとめられたものは当然読み取られた情報に基づく。図2は、生徒が資料より読み取った情報をまとめたものの例であ



図2 資料より読み取った情報をまとめたものの例

る。

また、これらの技能は、単元など内容や時間のまとまりごとに全てを身に付けようとするものでもない。資料の特性等とともに情報を収集する手段やその内容に応じて様々な技能や留意すべき点が存在するとも考えられる。そのため、小学校の社会科での学習を踏まえるとともに高等学校の地理歴史科、公民科での学習を視野に、中学校社会科の学習において生徒が身に付けることが目指される技能を繰り返し活用し、その習熟を図るよう指導することが大切である。

3 ロイロノート・スクールによる実践

これまで、習得する知識や調べまとめる技能について述べてきたが、タブレットPCや電子黒板等のICTを活用し、生徒同士による意見交換、発表などまとめたことを表現する場面について説明する。



図3 ICTを活用し協働学習している場面（「教育の情報化に関する手引—追補版—」から抜粋）

図3は、「学びのイノベーション事業実証研究報告書」で示されているICTを活用し、協働学習している場面の例を四つ示している。ここでは、「発表や話し合い」及び「協働での意見整理」の学習場面に着目し、ロイロノート・スクール（以下ロイロノートと表記）のシンキングツール機能を用いた実践を紹介する。

以下は、中学校第2学年歴史的分野の学習指導案の抜粋である。

1 単元名 明治維新 (教材名『明治維新の三大改革』)		
2 本時の実際 (3/8)		
(1) 学習目標 明治維新の三大改革の目的や意義について、資料から得た情報を基に多面的・多角的に考察し、それらを根拠に自分の考えを表現することができる。		
(2) 展開		
過程	学習活動	教師の手立て
導入	1 本時の学習課題を設定する。	
	明治政府はどのような国づくりを目指すべきなのだろう。	
展開	2 課題解決のために資料から情報を収集し、それらを根拠に自分の考えを他と共有する。	班の考えをまとめさせるために、ロイロノートのシンキングツールを活用するようにする。
	課題解決に迫る問い 明治政府の三大改革のうち、なくなったら困る政策はどれだろう。	
	3 自分の班の考えと他の班の考えを比較する。	他の班のまとめを確認させるために、ロイロノートの共有機能を活用するようにする。
終末	4 学習課題に対するまとめを行う。	
	明治政府は近代国家を目指すべきだが、国民の協力が得られるように調整しながら進めるべきである。	

(鹿児島市立吉田南中学校協教諭の実践を基に作成)

この実践では、学習目標を「～資料から得た情報を基に多面的・多角的に考察し、～自分の考えを表現する」と設定している。特筆すべきは、資料から得た情報を基に多面的・多角的に

考察する際、生徒がロイロノートを活用し、思考を整理・可視化させようとしたことである。ロイロノートの活用により、生徒が自分で情報を収集し、読み取り、まとめるために、学習の手順や解決方法を考え、主体的な学びを深めていくことにつながった。具体的には、まず生徒が教師から「明治維新の三大改革のうち、なくなったら困る政策はどれだろう。」という課題解決に迫る問いを提示された。次に、生徒がロイロノートのシンキングツールを活用し、三大改革（学制、兵制、税制）について、関連のある複数の資料の中から情報を収集、読み取り、まとめた。その後、資料を基に自分の考えを整理して周囲に伝えたり、他の考えと比較したりした（写真）。例えば、学制であれば諸外国は教育に力を入れている、兵制であれば他の国から攻め込まれないためにも徴兵している、税制であれば地租改正により政府の収入が安定するなど、なくなったら困る政策をそれぞれの班でまとめた。このように生徒がシンキングツールを効果的に活用することで、明治政府が目指した近代国家の特色について、社会的な見方・考え方を働かせながら、多面的・多角的に考察し、表現する姿が見られた。



写真 シンキングツールを活用し自分の考えを伝えている様子

4 まとめ

今回は、ロイロノートのシンキングツール機能を活用し、調べまとめる技能における効果的な実践例について紹介した。他にも、様々な機能がある。

例えば、生徒が撮影した資料を班で共有し、話し合った内容をタブレット上で自由に書き込む活動も ICT を活用することで容易となる。

また、シンキングツールとしては、Microsoft Whiteboard や Google Jamboard 等のアプリでも同様の機能があるので、各学校のタブレット PC 等の環境に応じて活用してほしい。最後に、ICT を活用する際の留意点と心構えを以下に紹介する。

- 社会科の目標、単元や本時の目標を踏まえて、ICT を活用する場面を設定する。
- 社会科の学習において、効果的なツール（例：地図帳 or 一人一台端末等）を活用する。
- 他教科等と同様、社会科の学習においても ICT の活用にはトラブルはつきものなので、チャレンジ精神で取り組んでみる。
- ICT の活用により社会科学習の幅が広がり、生徒が学ぶ楽しさを見いだせたら大成功である。
- 工夫とアイデア次第で、ICT 活用の可能性は無限大である。

—引用・参考文献—

- 文部科学省『中学校学習指導要領（平成 29 年度告示）解説総則編』平成 30 年，東山書房
- 文部科学省『中学校学習指導要領（平成 29 年度告示）解説社会編』平成 30 年，東洋館出版社
- 社会科教育編集部『ICT×社会 GIGA スクールに対応した 1 人 1 台端末の授業づくり』令和 3 年，明治図書出版
- 和田誠他『GIGA スクール対応！中学・高校社会科授業 ICT 活用ガイド』令和 3 年，明治図書出版
- 文部科学省『学びのイノベーション事業実証研究報告書』平成 26 年
- 文部科学省Web サイト『「教育の情報化に関する手引について』（令和 4 年 1 月アクセス）
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00117.html
- 文部科学省Web サイト『各教科等の指導における ICT の効果的な活用に関する参考資料』（令和 4 年 1 月アクセス）
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/mext_00915.html
- 鹿児島県総合教育センターWeb サイト『鹿児島県 GIGA スクール構想の実現に向けて』（令和 4 年 1 月アクセス）
<http://www.edu.pref.kagoshima.jp/GIGAschool/top.html>

（教科教育研修課 尻無濱 正和）